

平成 29 年度 福岡大学附属若葉高等学校教育及び校務運営方針

- 教育理念**
- ① 社会に貢献できる知性と徳性に優れた人間性豊かな人の育成
 - ② 高大一貫教育を通じて、明朗澁刺たる自主独創の態度の育成

校 訓 強く、正しく、優しく

- 基本方針** 本校の教育理念に則り、本校教育目標を次のとおり定める。
- ・ 品性と思いやりのある人間の育成
 - ・ 規範意識をもった心豊かな人間の育成
 - ・ 社会で活躍できる知性と教養を身に付けた人間の育成
- ◎ 生徒一人ひとりを大切に、深く生徒に関わる教育を実践する。

平成 29 年度の目標

附属高校としての教育基盤を確立し、教育システムの改革を推進する。

【平成 29 年度 教育目標・事業計画】

校務運営

- ① 教育システム改革と安定的な財政基盤の確立
- ② 規程等の改正・整備による校務運営の効率化・適正化
- ③ 教育環境整備のための施設・設備等の更新計画
- ④ 社会への認知度向上に向けた戦略的広報の推進

管理職

管理職

管理職

管理職・広報

教 育

- ⑤ 教員の資質能力向上
- ⑥ 一貫教育の評価・改善と主体的・協働的な学びの推進
- ⑦ 基礎学力の向上と I C T の活用
- ⑧ 道徳教育、人権教育の推進と、情報化社会への対応
- ⑨ キャリア教育の充実

研修

教務・一貫教育

教務

生徒・特活

進路・一貫教育

【平成 29 年度の目標達成に資する取り組み概要】

校務運営

- ① 教育目標・教育方針に基づいた教育活動を持続的・発展的に推進するため、附属高校としての教育システム改革に着手し、安定的な財政基盤を確立する。
- ② 法人への完全統合を実現するため、諸規程等の改正・整備に着手するとともに、校務運営の効率化・適正化を図る。
- ③ 生徒と教職員に魅力ある教育環境を提供することをめざし、創立 10 周年記念事業を視野に入れ、老朽化した施設・設備等の更新計画を策定、環境整備を推進する。
- ④ 志願者確保に向けた広報活動にとどまらず、適時・適切な情報を受験生、保護者、中学校関係者等広く社会に向けて発信し、本校のブランド力と認知度の向上を図る。

教 育

- ⑤ 教員の資質能力向上に向けて意識改革を進め、教育の変化に対応するための研修の強化・充実を図る。
- ⑥ 第一期生の大学卒業を受け、高大一貫教育システムの評価と改善を行うとともに、高等学校から大学の学びに通ずる課題解決に向けた主体的・協働的で、能動的な学びへと授業を革新し、学びの質を高め、深める。
- ⑦ 高校生としての基礎的な学力を確実に身に付けさせるため、I C T の活用や生徒の学習の到達度を把握するための新たなテストの導入に向け検討を行う。
- ⑧ 生徒の豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自尊感情、他者への思いやり、人間関係を築く力、社会性、公共の精神、主体的に判断し、適切に行動する力などを育むため、道徳教育や人権教育を推進する。あわせて情報環境活用時のマナーやモラルを学ばせ、同時に個人情報やセキュリティーに留意させる。
- ⑨ 生徒が自らの夢や志について主体的に考え、学ぶ意欲を高めるとともに、能動的に学び、自己を確立していくことができるように、キャリア教育を充実する。

【平成28年度の取り組みとまとめ】

評価項目	目 標	具体的取り組み	まとめ(反省・課題) 2月現在	自己評価
教 務 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上 主体的・協働的な学びの推進 高大接続の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 大学との連携教育を進め、課題研究や発表をはじめとする主体的・協働的な学習(アクティブ・ラーニング)を推進する。 学習の到達度を把握するための新たなテストの導入に向けて検討を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 高大一貫教育は、今年で7年経過するが、順調に継続している。 主体的・協働的な学習は、研究段階にあり、学校をあげての組織的な実践には至っていない。 平常点の表記については、検討が進み、次年度より改定の見込みである。 新テストに向けての取り組みは、研修会への参加などを通じて情報の蓄積にあたっている。 	B
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学部訪問・学部学科説明会などを通じて、進路指導を充実させる。 自らの夢や志について主体的に考え、学ぶ意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスなど学年全体で学習する機会があったが、ホームルームの時間が少なかった。 大学卒業後の職業への意識も高め、進路選択をさせる必要がある。 学年、コースの色の違いが目立つ。また、担任としての指導性を発揮する必要がある。 	B
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育、人権教育の推進(豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自尊感情、他者への思いやり、人間関係を築く力、社会性、公共の精神、主体的に判断し、適切に行動する力などを育む) 	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートを活用しながら、自尊感情や豊かな心を育成するとともに、スマートフォン活用のモラルを学ばせる等、規範意識を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートより、留意すべき生徒と担任との2者面談を行い、保護者と連携し問題解決にあられた。継続した支援システムの構築が必要である。 携帯、スマホの活用について、生徒の実態を把握しルール作りをしていく必要がある。生徒教師それぞれに研修、啓発を継続的にやりたい。 生徒の自尊感情を高めるための生徒会活動やリーダー育成が大切である。若葉の頑張りや「生徒の力」で積極的にアピールしていく。 	B
保健指導 特別教育活動		<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や部活動への積極的な参加を促し、校内美化・健康管理意識を醸成する。生徒指導・相談体制を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭、文化祭は、生徒主体で運営する面を更に増やしていきたい。 防災訓練は、地震に対するものと火災に対するものと2回実施した。 保健講話、食育講話の実施により、専門的な観点から学習し、現在の自分と向き合うことができた。 部活動の全国大会出場は、例年に比べ減少した。 整美については、清掃活動・委員会との連携に関し課題が残った。 	B
研 修	<ul style="list-style-type: none"> 教員の資質能力向上 (学びの質を高め深めるため、教員の資質能力向上に向けた意識改革、研修を充実させる) 	<ul style="list-style-type: none"> 高大接続改革、新テスト導入、アクティブ・ラーニングの積極的な取り入れに向け議論する。 教員の意識改革、研修の充実を図る。 学校自己評価に基づき、保護者による学校関係者評価、生徒による授業評価を公表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 私学協会主催、学級経営研修会・授業力向上研修会には、毎年2～3名の参加を見ており、今後の継続とともに若干の増員をしたい。 私学協会の人権・同和関連研修にはきちんと参加している。 高大接続改革に向けて、県や予備校主催の研修会に参加し情報の収集をしている。また、校内委員会を設置し検討を進めている。 ベテランの教員の研究授業への積極的な取り組み姿勢が欲しい。 	B
広報 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 社会への認知度向上に向けた戦略的広報の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 受験生拡大に向けた広報活動にとどまらず、受験生、保護者、中学校関係者に向けて適切な情報を提供し、社会への認知度向上、ブランド力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校案内や広報各行事に向けた資料の作成と、中学校や学習塾への訪問、進路説明会への参加、体験入学や保護者説明会を計画し、実施できたが、受験生の増加には至らなかった。 広報メディアとしてのホームページのリニューアルに向けて準備を進めた。 	C

※ 部署ごとに、反省・課題を確認し、目標と具体的取り組みに対する到達度を4段階(A～D)で評価する。

【 平成28年度の取り組みに関する学校関係者（保護者）評価 】

評価項目	目 標	学校関係者(保護者)評価		到達度 評価
教 務 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上 主体的・協働的な学びの推進 高大接続の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 平常点制度を見直す方向で、生徒に危機感を感じさせた方が良い。 学力向上の取り組みは良い。 基礎学力について、特進以外のコースへのアプローチが必要。 校内実力テストは、コース別実施の検討が必要。 進学コースも福大コースのように受験できる学力向上を。 	<ul style="list-style-type: none"> 平常点は、このまま進めてほしい。 補習などの学習時間が少ないと思われる。 希望者だけでも、早期に有料で授業増を希望する。 一貫教育の取り組みは評価できる。学力アップにも力を入れて欲しい。 私立の進学校としての特色が今一つ感じられない。 特進コース以外の進学に対する取り組みの検討が必要。 	B
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 四年制大学の実績向上とともに、生徒の独自の夢や志の理解と支援を望む。 全てのコースに附属推薦の活用ができるようにしてほしい。 ライフプランを視野に入れたキャリア教育を期待したい。 より詳細な進学情報を各担任がもって指導して欲しい。 福大以外の大学などの情報量が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 附属校として「せめて福岡大学を目指そう」という意識づけを。 全体的に進路指導と生徒にかかわる時間が少ない。 卒業生から話を聞く機会をコース別にもっと設けてほしい。 取り組みは評価できるが、もう一步踏み込んでほしい。 コースごとの細かな進路指導が必要。生徒への踏み込みが必要。 	B
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育、人権教育の推進(豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自尊感情、他者への思いやり、人間関係を築く力、社会性、公共の精神、主体的に判断し、適切に行動する力などを育む) 	<ul style="list-style-type: none"> 携帯、スマホの指導の方向性を結論付けたほうが良い。 スマホの学校への持ち込みを条件付きでも認めてほしい。 ほとんどの生徒が、楽しく学校生活を送っていることは評価できる。 スマホは、やみくもに禁止するのではなく、健全な使い方への指導が必要。 女子校ならではのリラックス感があり、楽しさを感じているのは良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートの取り組みは、重要であり、続けてほしい。 携帯スマホは、便利な面、落とし穴も多く、慎重に進める必要がある。 教師と生徒の関係は良好と思われる。 スマホについては、持込可否の両サイドからの検討を重ねる必要がある。 生徒自らスマホ、SNSのマナー留意点を学ぶ場が欲しい。 	B
保健指導 特別教育活動		<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、清掃を基本に指導することは良い。 良い講演を聞かせ意識の喚起を図るのもよい。 保健講話などの保護者向けの案内を早めにしてほしい。 道徳教育、人権教育は、生徒が運営する討論会などの工夫を期待したい。 女子校ならではの保健講話や食育講話は、とてもよい取り組みである。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭の運営は、もっと各クラスの体育委員を活用した方が良い。 保健講話、食育講話は講師の選び方もよく、充実した講話だった。 部活動と勉強を両立させる指導を強化して欲しい。 体育祭の生徒主体は素晴らしい。 	B
研 修	<ul style="list-style-type: none"> 教員の資質能力向上 (学びの質を高め深めるため、教員の資質能力向上に向けた意識改革、研修を充実させる) 	<ul style="list-style-type: none"> 多忙な中でも子供たちのために研鑽して欲しい。 教師の質を高めるための研修をお願いしたい。 女性教員が積極的に指導的立場に立ち、生徒の手本となるよう期待したい。 新しい情報を得るために、大学のイベントに教員の積極的な参加を希望する。 予備校などの学習指導法を研修し、責任をもって指導して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修により学校のレベルアップに繋げる。学校全体の意識改革が必要。 再発防止の取り組みに留意して欲しい。 教員の女子教育の研修を、同じ方向性をもって指導できるように。 	B
広報 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 社会への認知度向上に向けた戦略的広報の推進 	<ul style="list-style-type: none"> もっとホームページを充実させ、タイムリーに発信できるように。 コース内容について、詳しい説明が欲しい。 発信の仕方に工夫が必要。(内部向けの情報発信の進め方) 部活動の成果をもっとメディアにアピールする。 ホームページの更新を業者に頼らず校内でスピーディーにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報は大切なので、早期に広報力を上げるべき。 オープンキャンパスなどの日数も多く、生徒も協力して実施されている。 ホームページには学校行事の発信を充実させ、PRする。 ホームページがもっと充実するとよい。 HPをはじめ、広報に力を入れる担当者が必要。 	B